

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	訪問発達支援おやこのにじ		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	2026年3月1日	～	2026年3月15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童精神科、保育園、幼稚園、児童発達支援、放課後等デイサービス、学校等、医療や教育、福祉等の現場経験をもつスタッフが多く在籍している。独りよがりの支援にならず、多視点で支援ができていると感じる。また、職種も、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、臨床心理士、保育士、栄養士等、在籍し偏りない支援ができる体制を整えている。弊社だけでなく、地域資源をフル活用できるように他事業所との連携強化しより子供たちの暮らしがよりよくなるサポートを考えています。	日々の支援の中で感じたことや疑問を、すぐに相談できる体制をオンライン、オフライン共に作っています。スタッフと保護者、先生達に負担をかけてしまわぬようメールや電話面談など、必要とされる支援体制を整えるようにしています。	福祉で対応できていない、育児の課題解決ができるよう保護者のご要望を取り入れていきたい。現在、親御さんが療育選択できるよう情報提供しています。
2	個別性の高い支援のため、保護者同士の繋がりや学びを共有できる体験の場が少ない。専門性が高いスタッフがサービス提供できると、より一層親子の成長に繋がると考えています。	国の施策や行政から通達は、限りなく全体職員へ伝達し風通しのよい職場をこころがけています。療育の最新知見など新しい情報も取り入れるように職員や保護者全体伝達しています。直接支援と間接支援どちらも必要なお子様に対して、積極的に現場の先生とコミュニケーションをはかり報告するようにしています。ケース会議は対面以外にも、可能な限りオンライン参加するなど情報共有を図っています。	利用している保護者様の子育ての不安を取り除き、日々の関わりに生かすために互いに安心安全に話せる関係性構築が必須条件と考えています。担当スタッフが、支援エネルギーをそぎ落としてしまわぬよう、スタッフ同士も家族と繋がる機会をつくっています。また、社会貢献としてスタッフが親子の活動機会を社会資源としてつくってまいります。
3	こどもの成長にあわせて、スピーディにモニタリングを行い支援方針や目標をきめて支援員と現場の先生、保護者に共有しています。	長期目標、短期目標ともに達成できた場合には、すみやかに保護者へ報告しています。連絡帳になるべく多くの写真や説明で、お子様の成長を共有できるようにしています。保育園や小学校など記録媒体を持ち込めない環境では、行いません。	発達支援のため、ご自宅での関わり方や支援目標などを早めに共有できるよう、プランニングから共に計画できるといと考え個別支援計画目標を達成した際には、すみやかに計画変更と同意を行っています。今後も、よりよい成長支援ができるような計画作成します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援は、保育園や学校の先生と日々の情報共有し支援を変更していくことが必要です。しかし、スタッフは非常勤の者もあり情報共有する時間が十分確保できているとは言えない現状があります。今後、定期的な支援内容や成果の共有時間を確保する体制が必要だと感じています。	発達支援と共に、こどもの発達段階(アセスメント)の共有が必要だと考えています。教育現場と療育現場では違う多様な視点で、現実課題を共有するコミュニケーションタイムが短いと考えています。	支援を必要とするお子様が増えており、先生が時間を確保できるかどうか工夫が必要となっています。現場によっては、電話、メール、会議、オンラインの対応があります。スタッフを多く抱えているからこそ、時間調整の工夫や記録工夫も必要です。今後は、共有チャットなど活用していきます。
2	個別訪問がメインの仕事であるため、全ての児童をスタッフがみる事ができていません。互いの支援スキルや子供の特性を共にアセスメントすることができません。スタッフの支援スキルをあげていくために、スタッフ同士で学ぶ機会やコミュニケーションをとり、保護者支援ができるといと考えます。	必要以上にお子様の記録をみる事ができていません。しかし、こどもの特性や発達段階にあわせて支援をかえていくスキルは、誰もが必要です。違う職種だからこそその視点をとりいれて考える機会を多く取り入れる必要があります。	保護者様、現場の先生、訪問支援のできる支援の共有するシステムができるといと考えます。弊社だけではできないので、社会全体で取り組む工夫が必要と考えます。
3			